

県立大 大教室で授業再開

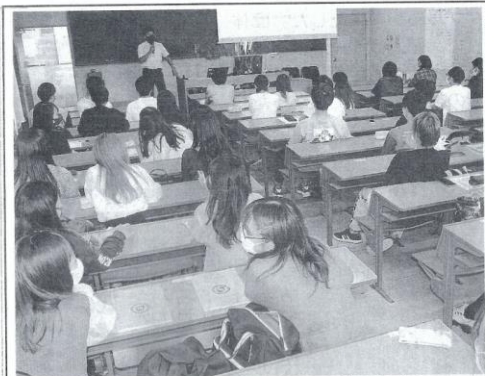
新型コロナ 対面、大学院含め7割

兵庫県立大(全部・神戸市西区)は1日、後期の授業を始めた。新型コロナウイルスの影響を受けて、前期は、実験や演習を除きオンラインで行っていたが、後期からは、原則的に対面で実施する。(太中麻美)

少人数のゼミや実験など、授業を対面で行う。

この日、政府会評議の授業には、学生約50人が出席。机に番号を貼り、間隔を空けて着席してもらった。教壇には透明のシールドを設置して対応した。

参加した柏木理沙さん



再開した対面授業を受ける学生ら＝神戸市西区学園西町8

(20)は「ス々に会う友だちもいて、一緒に勉強するのやる気が出る。でもオンライン

大学教育、交流に意義

太田学長「コロナ後のあり方研究」



兵庫県立大の太田学長。写真右に、対面授業への思いや新型コロナウイルス感染防止の工夫などを聞いた。

「なぜ対面授業を。」

「大学の教育において、キャンパスの中で教員と学生が議論し、交流して、切磋琢磨することは極めて重要な意味がある。学生の在学期間は4年と限られた貴重な時間。オンライン授業にも利点はあるが、可能な限り対面で行えるよう、学内で協議し、感染防止策も含めて準備を進めてきた。」

対面授業の割合は、

インと対面の授業が連続して、時間割が複雑になった面もある」と話した。

授業を受け持つ同大の都築洋一郎准教授(43)は「オンラインは教員の一方通行になりがち。学生の顔が見えると、理解度に応じて説明を追加するなど、臨機応変に対応できる」と話していた。

「学部は約60%、大学院は約95%、全体では約70%となる。密集を避けるため、教室の定員を減らすなど各学部で対応したが、特に人数が多い授業は「3密」を回避できず、オンラインで実施することにした」

「学生が戻ったキャンパスを見て、どう感じたか。」「大学は学生あつたもの。教育が大学の使命だ。本来の姿が少しずつ戻ってきている。コロナ後の大学教育のあり方も研究する必要がある。事前に学生がコンテンツを見てから、対面授業で学ぶなど、オンライン授業の良いところを取り入れつつ、学内で研究会を立ち上げ、議論していく必要がある。」

(左から上)太田学長、太中麻美